

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定（試行事業）
試行事業病院総合医養成プログラム 年次報告書

2014年7月29日

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会

理事長 殿

以下に記載した内容で、貴学会の試行事業における病院総合医養成プログラムとして認定を更新していただけますよう申請いたします。

プログラム責任者署名 **横山 知司**

1. プログラム名称			
奈良民医連病院総合医養成プログラム			
2. プログラム責任者			
プログラム責任者氏名	横山 知司	指導医認定番号	
所属・役職	社会医療法人健生会 土庫病院・理事長		
所在地・連絡先	住所 〒635-0022 電話：0745-53-5471 FAX：0745-22-0512 E-mail yokoyama@kenseikai-nara.jp		
連絡担当者氏名*・役職	小林 賢一郎／研修担当事務	*プログラム責任者と別に連絡担当者がいる場合のみ記載	
連絡先	電話：0745-53-5471 FAX：0745-22-0517 E-mail:kobayasi@kenseikai-nara.jp		
3. 最近1年間のプログラムの概要			
・研修者の感想や、アピールポイントをお書きください			
<p>奈良民医連は地域に根付いた200床規模の中小病院を中心に、複数の診療所、訪問看護ステーション、訪問も視野に入れたリハビリテーション、老人保健施設など複合的な医療福祉介護施設を持つネットワークを維持し、急性期から慢性期に至るまで幅広いニーズに対して包括的な医療の提供を目指しています。病院総合医が渴望されるこの地において、関連する施設、医療スタッフ、介護看護スタッフらとともに、質の改善、新たな展開の模索、後進育成などの点において、リーダー的存在として牽引できる中堅医師を目指したフェローシップを提供します。</p> <p>病院総合医としての重要ポイントとして「入院治療を要する疾患や病態の診断と治療（手技も含む）」「病院内のシステムに基づく能力」があげられます。より高いレベルの症候診断力、救急疾患、急性期疾患の外来病棟診療、マネジメント能力に加え、初期研修医や後輩医師の教育、コメディカルスタッフの教育と学習の促進、医療安全、診療の質改善、医師同士あるいは医師以外の病院スタッフ間のコミュニケーションや情報共有の促進、リーダーシップ、効果的な医療の提供、EBMの実践と教育、臨床研究の実施などが中心課題としてあげられます。</p> <p>1)病棟における幅広い臨床能力 頻度の高い、入院を要する健康問題について幅広い知識と高い診断能力、マネジメント能力を深めます。救急患者など、比較的緊急性の高い患者、症状を有しながらも診断がついていない患者に対して医学的問題点を的確に把握し、適切な検査、治療介入の計画を立てることが求められ、また専門診療科や他の医療スタッフと連携を取りながら、病棟主治医として診療、マネジメントにあたることを求められます。さらに、地域の中で特に求められることとして、複雑な問題や多数の医学的問題を抱える高齢者のケアや、貧困や家族の問題を持つケース、精神障害を持ついわゆる Vulnerable Parsons と呼ばれる社会的弱者についても、幅広い医療介護福祉資源を活用しながら適切なマネジメントを行うニーズがあり、本プロ</p>			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

グラムでも強調して取り組まれる視点です。

<具体的な疾患>

急性冠症候群、急性腎不全、喘息、不整脈、慢性閉塞性肺疾患、市中肺炎、うっ血性心不全
せん妄及び認知症、糖尿病、消化管出血、疼痛管理、敗血症、脳卒中、尿路感染症

静脈血栓塞栓症、蜂窩織炎、周術期の管理

<困難な状況、倫理的配慮の必要な具体例>

本人が治療を望まないが致死的な疾患を抱えるケース、
貧困、身寄りのない高齢者・認知症患者の意思決定、生活保護の導入、アルコール依存症
精神障害、高齢者虐待、薬物依存など

2)病院のシステムの中で求められる能力

適切な入院ケアを行う上で院内の様々なチームにおけるマネジメントに貢献する。病棟カンファレンスの運営、クリティカル・パスの作成/運営や、横断的医療チーム（NSTやICT、褥瘡チーム、緩和ケアチーム、医療安全検討チーム、救急医療チーム、倫理委員会など）に携わり、効率的なケアを促進することを学びます。また、それらチームの提供する医療の質についても常に批判的視点を持ちながら、医療の質改善に向けた取り組みを行いながらチーム運営に貢献することを求められます。

3)他科やコメディカルとの関係を調整する能力

病棟主治医として専門的治療を提供するための橋渡しの役割を担うことも、中小病院では重要な視点となります。単に専門科紹介に終始するのではなく、専門医の意見を尊重しながら個別の患者マネジメントとして適切な臨床意思決定をコメディカルスタッフとともに進めていくことができることが求められます。

4)医師としてのキャリア

初期研修、後期研修を修了した6年目医師として、医師としてのキャリアを築いていく重要な時期でもあるといえます。以後およそ10年目までを視野に入れた展望について考える期間としてプログラム期間内にも支援していきます。

<一般的なスケジュールの例>

	月	火	水	木	金	土
早朝	新入院カンファ	病棟	病棟	病棟	医局会議	抄読会
午前	病院外来	研修回診	チーム回診	病棟	病棟	病棟
午後	病棟	病棟	研修枠	訪問診療	救急担当	
夜診		振り返り				
				当直		

病院外来：午前1単位 夜診1単位

訪問診療：1単位（もしくは診療所での外来診療）

当直：週1回

時間外救急対応：救急外来

チーム回診：所属する横断チームとしての活動

早朝の時間帯には初期研修医、後期研修医らを含めたチームでの病棟申し送りを行う。

研修枠は希望する内容に応じた研修内容を組み込む。

月1回程度の初期研修医/後期研修医のための学習会開催

学会活動（学会発表を含めた学会参加、セミナー参加など）

研究活動（質、量を含めたプライマリ・ケア研究）

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

4. 過去2年間の実績							
2013年度	新規研修開始者数		0名				
	研修修了者数		0名				
2014年度	新規研修開始者数		0名				
	研修修了者数		0名				
5. 現在のプログラム研修者該当者数（研修休止中の者を含む）							
1年目	0名	2年目	0名	3年目	0名	4年目	0名
6. プログラムにおける指導医 主たる施設における指導医以外の、関連病院の指導医は氏名の下に施設名を記載							
氏名	卒業年	専門分野・資格		専門分野・資格			
横山 知司	1981年	総合内科		日本 PC 連合学会認定医			
		初期研修指導医講習会受講		日本 PC 連合学会指導医			
山西 行造	1976年	循環器内科		日本内科学会認定医			
		初期研修指導医講習会受講		日本循環器内科学会専門医			
更屋 勉	2001年	消化器内科		日本内科学会認定医			
		初期研修指導医講習会受講		日本 PC 連合学会認定医			
清水 一範	2003年	呼吸器内科		日本内科学会認定医			
		初期研修指導医講習会受講					
三好 毅志 (おかたに病院)	1989年	総合内科					
三木 隆 (吉田病院)	1990年	総合内科					
石丸 敏博 (土庫こども診療所)	1983年	小児科		小児科学会専門医			
朝倉 健太郎 (大福診療所)	2002年	家庭医療		日本 PC 連合学会認定医			
		初期研修指導医講習会受講		在宅医療専門医			
土井 真知子 (日の出診療所)	2003年	総合内科		日本 PC 連合学会認定医			
		初期研修指導医講習会受講					
馬場 宏 (河合診療所)	1966年	家庭医療		日本 PC 連合学会専門医			
				日本 PC 連合学会指導医			
津島 寿幸 (土庫病院)	1988年	家庭医療		日本 PC 連合学会認定医			
				日本 PC 連合学会指導医			
7. 施設・診療科診療実績概要							

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

病床数 199床（内総合診療部門定床 119床） 総合診療部門外来患者実績 初診 約210人/月 再診 約2,220人/月 総合診療部門入院患者実績 平均 約160人/月

8. 診療実績 研修者1人平均経験症例		
急性期一般病床入院	約	症例
集中治療室（ICU）・HCU入院症例	約	症例
外来継続診療症例	約	症例
看取り症例	約	症例
委員会活動実践事例	約	症例
教育実践事例	約	症例
研究実践事例	約	症例

9. 診療実績 研修者一人平均経験症例 領域別

症例数不明の場合は、おおよその割合を記載してください		
研修領域	症例数もしくは割合	主な疾患名
心疾患系	約 症例	
	約 %	
呼吸器系	約 症例	
	約 %	
消化器系	約 症例	
	約 %	
代謝内分泌・血管系	約 症例	
	約 %	
神経系	約 症例	
	約 %	
腎泌尿器科系	約 症例	
	約 %	
リウマチ性・筋骨格系	約 症例	
	約 %	
皮膚	約 症例	
	約 %	
耳鼻咽喉科	約 症例	
	約 %	
その他	約 症例	
	約 %	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

10. 研修者の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、具体的に）

11. プログラムの質の向上・維持の方法

その他、お気づきの点やご意見等ありましたら下記にお書きください